

栗原市地震防災マップ

揺れやすさマップ 金成地区

宮城県沖地震(連動型)の場合



金成地区

栗駒地区

- この揺れやすさマップは、海溝型の地震である宮城県沖地震(連動型)を想定した場合の震度分布を、100メートルメッシュ毎に表示しています。
- この地震は、1793年に宮城県沖の広い範囲で同様な地震が起きたとされ、次の宮城県沖地震でも起きる可能性があると考えられています。マグニチュード 8 を想定しています。
- なお、ここに示した震度は、地震の規模や震源の距離から予想される平均的な揺れの強さです。地震の発生仕方によっては、揺れはこれより強くなったり、弱くなったりすることがあります。

■マップの作成手順

このマップの作成にあたっては、おおよそ次のような手順で、震度(揺れの大きさ)を予測しています。

○ 地域に影響の大きいと考えられる地震(新原の地震(震源・新原断層による地震)、気貫断層(宮城県沖地震(単純型、逆断層)、どこでも起こり得るタイプの地震)を選び、震源となる新原の規模や位置、形状などの情報を設定します。

○ それぞれの地震について、地震の規模や震源となる新原までの距離などにより、揺れの強さが変わる性質を用いて、「地表面付近(地下の基盤)での揺れの大きさ」を算出します。

○ 体に感じる「地表での揺れの大きさ(震度)」は、「地表面付近(地下の基盤)での揺れの大きさ」に「足元(表層の地盤)揺れやすさ」を加算することで求められます。一般的に、足元の地盤が軟らかいほど、また揺れかまのものが多く埋積しているほど、地表面では大きな揺れとなる性質がありますので、「震度」が大きくなります。

○ このマップでは、全域を100mメッシュに分割し、メッシュごとに地表面での震度を詳細に求め、表示しています。

■震度の大きさ＝震度とはなにか？

地震が起こったとき、ある場所での揺れの程度を表すのが震度です。震度の決め方は国によって異なり、わが国では気象庁が定める震度階級によって震度を表示しています。従来は震度のからまでの階級でしたが、平成29年10月からは震度6を2つに分けて震度6(1)と震度6(2)とし、震度7を加えることで、従来の震度6(1)と震度6(2)の区別をより明確に示すことになりました。震度6(1)と震度6(2)は、震度6(1)と震度6(2)の区別をより明確に示すことになりました。

震度階級	人間	屋内の状況	屋外の状況	木造建物
0	人は何も感じない。			
1	震動に気づく人が一部に、わずかに揺れを感じる。			
2	震動に気づく人が多く、揺れを感じる。	壁にぶつかるものや、天井の照明などが揺れる。		
3	震動に気づく人がほとんど、揺れを感じる。	壁にぶつかるものや、天井の照明などが揺れる。壁紙が剥がれる。		
4	歩行者が歩行が困難になり、揺れを感じる。	壁にぶつかるものや、天井の照明などが揺れる。壁紙が剥がれる。家具が倒れる。	木造の建物が揺れる。電線が揺れる。	
5弱	歩行者が歩行が困難になり、揺れを感じる。	壁にぶつかるものや、天井の照明などが揺れる。壁紙が剥がれる。家具が倒れる。天井の照明が揺れる。	木造の建物が揺れる。電線が揺れる。電線が揺れる。	
5強	歩行者が歩行が困難になり、揺れを感じる。	壁にぶつかるものや、天井の照明などが揺れる。壁紙が剥がれる。家具が倒れる。天井の照明が揺れる。	木造の建物が揺れる。電線が揺れる。電線が揺れる。	
6弱	歩行者が歩行が困難になり、揺れを感じる。	壁にぶつかるものや、天井の照明などが揺れる。壁紙が剥がれる。家具が倒れる。天井の照明が揺れる。	木造の建物が揺れる。電線が揺れる。電線が揺れる。	
6強	歩行者が歩行が困難になり、揺れを感じる。	壁にぶつかるものや、天井の照明などが揺れる。壁紙が剥がれる。家具が倒れる。天井の照明が揺れる。	木造の建物が揺れる。電線が揺れる。電線が揺れる。	
7	歩行者が歩行が困難になり、揺れを感じる。	壁にぶつかるものや、天井の照明などが揺れる。壁紙が剥がれる。家具が倒れる。天井の照明が揺れる。	木造の建物が揺れる。電線が揺れる。電線が揺れる。	

凡例

震度

- 震度2以下
- 震度3
- 震度4
- 震度5弱
- 震度5強
- 震度6弱
- 震度6強(1)
- 震度6強(2)
- 震度6強(3)
- 震度6強(4)
- 震度6強(5)
- 震度7

※このマップにおいて、川・湖沼等の閉りや市の境界部等で、計算上、色の塗られていない箇所があります。

栗原市 建設部 建設住宅課
TEL 0228-22-1153 FAX 0228-22-0313

